

QSK 一人は皆のために 皆は一人のために

福岡県脊髄損傷者連合会
2016年12月10日

わだち

No.199

福脊連ホームページアドレス www.normanet.ne.jp/~ww101926/

1人の国を行方.....経の問(4)

「相模原殺傷事件(2)」その後の報道は、減少し「何故、事件は防げなかったのか」という「疑問」が飛びかっていたが、厚生労働省は八日、再発防止策の報告書が公表された。

その報道の概要『検討チーム』は、精神科や薬物依存症の専門家、障害者団体の代表など九人で構成。この日は、警察庁や神奈川県、相模原市といった関係機関に加えて容疑者の診療に関わった病院を調査した医師らも参加した。会合は個人情報扱ったことから非公開とされた。今回は措置入院や退院の決め方、退院後の対応などを中心に意見を交わしたという。このほか厚労省は、論点として『地域に開かれた施設』と両立する防犯対策・「警察など関係機関との情報共有」などを上げたという。

報告書では、「措置入院を決める都道府県や政令指定市に対し、すべての患者について入院中から退院後の支援計画づくりを求めた。計画に盛り込む支援内容は入院先の病院や居住する自治体の職員による「調整会議」で検討会議には患者本人や家族の参加も促す。」という。事件における警察の対応については「法令に沿ったもの」と触れるにとどめ、再発防止につながる検証結果など明らかにしなかった。』

一方、『精神障害者当事者から「現行の措置入院について『社会防衛的』に運用されることがあり、多くの精神障害者のトラウマになっている」と指摘されている。つまり、退院後の継続支援が「福祉目的ではなく防犯目的」であること、監視強化への秩序化されるのではないかと心配である。

植松容疑者はいま精神鑑定を受けている段階で、事件と病気の関係ははっきりしてない。精神医療の現場などには急ぎの足の議論への懸念もあった。』以上(朝日新聞12/9・11日記事抜粋概要)

《わだち目次》

!この国のゆくへ.....経の問! (4)1P

みんなで集おう心ふれあう人権広場〜ハートフルフェスタ福岡2016に参加して.....5P

車椅子ロンドン滞在記 その1.....7P

貧乏暇あり.....9P

福祉住環境づくり事例 車いすのままトイレへ.....10P

障害者の権利に関する条約第1回日本政府報告(案)(日本語仮訳)「参考資料2」より.....

今月の時事.....12P
.....16P

～みんなで集おう心ふれあう人権広場～

ハートフルフェスタ福岡2016

に参加して

文化体育部長 久保 親志

十月二日(日)、前日まで曇りが心配された天気はな、当日は、十月とは思えないほどの日差しと気温。福岡市役所西側ふれあい広場でオープニングのファンファーレと共に、「ハートフルフェスタ福岡2016」が開催されました。

この催しは、人権を楽しく学ぶための福岡市人権啓発センター主催のフェスティバルです。ステージイベント、交流ブース、ふれあいマーケットなど、みんなで楽しめるイベントが盛りだくさんでした。私も、副企画委員長として、

企画・立案に係わって参画しましたので、その概要を報告したいと思います。



人権交流イベントに、一万九千人の市民が参加しました。ハートフルフェスタとはそもそも、ハートフルフェ

スタ福岡とは「福岡市人権教育・啓発基本計画」に基づき、市民の人権意識の高揚を図り、暮らしの隅々まで人権の意識が根づいた人権を尊重することが当たりまえである社会、すなわち「人権という普遍的文化」を築くことを目的としたフェスティバルなのです。

基本方針として

(1) イベントに参加した市民が、楽しく、そして自然な形で人権に接することが出来る場を提供する。

(2) 人権に関する知識や考え方などへの理解を深めると共に、思いやりの心やお互いを支えあう心の大切さを体験出来る機会をつくる。

(3) 子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中において、21世紀を担うことも私たちの人権尊重の心と態度を育成する機会をつ

くる。

(4) アジアをはじめとする世界各国との国際交流や協力を広め、お互いの人権を理解し尊重し合う活動を進めていくことにより、国際感覚豊かな人権意識の高揚を図る。

(5) 人権に関する市民グループや団体等の活動を広く市民に紹介すると共に日頃の活動の発表の場とする。

(6) 人権に関する活動を行っている市民団体間の連携を推進する。

この、6本の基本方針を中心にして参加団体がそれぞれユニークな企画と運営で様々な人たちとの出会いと触れあいの場を創り上げて行くことです。

企画運営から開催まで

まず、第一回目の企画委員会は本年三月二日(火)、福岡市人権啓発センターに

い風景が、地震で失われるとは思わなかった、地震に負けずに頑張る人々の気持ちを汲み、近く続編の撮影を益城町で始めたい」と、出身地・熊本への熱い思いを語りました。



交流ブースは、約七〇ブースの参加でした。少し、紹介しますと、福岡市視覚障害者福祉協会の「あおぞらマッサージ」や福岡手話の会の「手話体験」さらには、福岡市人権教育研究会の「福岡市の人権教育推進に向けて」などでした。来場者の皆さんと共に、「みんなちがって、みんな

い」の実現ができました。さらには、「みんながやさしい、みんなにやさしい」というユニバーサル都市・福岡のスピーカーに、つながり、会場全体が明るく和やかな雰囲気にも包まれ終わりました。

私はこのイベントを通じて、基本的人権について、理論と実践を自然な形で学ぶことが出来ました。



次回も、同じ時期に開催される「ハートフルフェスタ福岡」を心待ちにしています。

以上

車椅子ロンドン

滞在記 その1

By 中ム

大変ながらく、会の活動もご無沙汰しております。ペンネーム 中ムと名乗らせていただきます。

簡単に自己紹介をいたしますが、1976年生まれの40歳。男性(未婚)です。1999年に脊椎を損傷し車椅子がメインの生活を送るようになりました。同時に当時は、

大学生でしたので、学業も大変難儀し大学・大学院修士課程を卒業するのに、11年を費やす結果となりました。専門分野は情報工学です。つい先日まで、さらに専門を深めようと大学院博士課程に在学しており、2016年の秋に博士(工学)を取得しました。

趣味は、油絵描きから始ま

り、車椅子バスケット、釣りに至るまで、多様な時間の使い方をしています。

さて、本題ですが、博士課程1年の最後の月、2014年の3月に1ヶ月間、大学の費用負担(一部)でイギリス、ロンドンの大学(インペリアルカレッジ)に短期留学いたしました。ご存知と思いますが、ロンドンでは前々回パラリンピックも開催され、車椅子での活動も比較的良好な環境かと想像しておりました。

それも踏まえて、本稿を書かせていただく次第です。

もしかすると、不定期掲載になるかもしれませんが、よろしくお付き合いください。

福岡からロンドンへ行く空路は、往復共にKLMオランダ航空を用い、阿姆斯特ルダム空港を経由し、目的地に向かいました。機内サービスは、期待をしていますが、

席は狭いものの、さほどキツイものではありませんでした。

オランダのアムステルダムまでは、1日近くかかりましたが、その先目的地のロンドン・ヒースロー空港までは、あっといふ間の1時間程度で到着しました。隣に乗り合わせたご婦人から人參のスティックからオーガニックチョコレートまで色々いただき、代わりにパソニックのデジカメの使い方をアドバイスした記憶が残っています。ちなみに中ムは、英語が苦手ではありませんが、流暢に話せるレベルではありません。

さて、ヒースローに到着してからが結構大変でした。まず、外国ですから入国審査を通らなくてはいけません。日本とイギリスは、ヒザなし渡航が可能です。

中ムは学生で、勉強する気満々でしたので、渡航目的を

研究としていました。

それが入国審査員のお気に召さなかったようです。

単純に観光と描いていれば問題なかったようですが・・・。

そこで、入国審査員と問答になってしまい、後ろに列を作ってしまった。

最後には、入国審査員はインビテーションシート(入国に關わる正式な招待状)を見せろと言ってきました。

あるなら最初から見せています。仕方がないので、受け入れ先の先生からのEメールを、ノートパソコンを開いて見せました。

しぶしぶでしょうが、入国審査員は、査証に無言で判をおしました。

さて、空港から宿泊地のホテルまでは、事前に調べておいた経路(地下鉄)をもちいた、中ムでしたが、大きく分けると地下鉄の駅は二つに分

かれます。エシベータが完備されている駅と、無い駅です。

あるなしは、路線図に分かるように明記してあります。

地下鉄で最寄りの駅(エシベータのある)までは、すんなり行きました。そこから先は、距離があるのでタクシーを利用することにしました。

駅員にタクシーに乗りたいたいところ、わざわざ電話をかけてくれました。

ここで待つように言われ、電話番号をなにやら教えてくれました。ところが、いつまでもたってもタクシーはやってきません。仕方なく、普通に道路を走っているタクシーをつかまえ、目的地のホテルまで到着しました。

途中で電話がなり、先の駅員がかけた、タクシーと思われる所から、駅にいないけれどもと問い合わせが、ありました。

“なかなか来るのが遅いから”と答えた中ム、これで良かったのかと考えたりもしました。ロンドンのタクシー事情ですが、なかなか快適なものです。中ムは、身軽ですので、車椅子をタクシーに自力で載せることが出来、運転手が介助する必要は、ありませんでした。

また、日本のタクシーとは作りが異なっており、車椅子も引き上げ易い構造でした。

それと、ドライバーも男性が多いものの、女性の運転手も結構いた、記憶があります。

1度、バックingham宮殿横を通った時、道が混雑しており、申し訳ないと思ったのか、値引きしてくれたドライバーもいました。

暖かい出迎えをロンドンで受けた、中ムの物語が始まります。

貧乏暇あり

北九州支部 白川 長廣



化することはできる。時間はたっぷりある。いろいろな形で、その役を引き受けた。

ところが、時間がたっぷりあるということ、その時間を有効に使つたということとは別であった。いつでもできるという思いと、一枚一枚ス

いまでも私が説明するまでもなく、冊子タイトルのように脊髄損傷者の戦後50年の歴史・生き様を記録したものである。発行後20年を経過しているが、今読んでみても過去のものと思えないものがある。この冊子も残り少なくなかり、データ保存をできないかとの提案があった。

キャナーで取って保存していく、という作業の手間を考えるとなかなか取り掛かれずいた。急げ者は如何に楽をするかを考える。考え付いたのは、私たちが会議で使う福祉会館にある裁断機、そして私が以前勤務していた北九州市障害福祉ボランティア協会(北九州支部は団体会員)のプリンターを借りることであった。どうやって行くのか? 電車で行くか市営バスで行く

か?どちらにも到着地は、戸畑駅で同じである。電車は乗り換えがないが、駅まで20分程度車椅子で行かなければならない。バスは2〜3分の所にバス停があるが、途中乗り換えが必要である。

貧乏暇あり。金はないが、時間はたっぷりある。市営バスは、福祉優待乗車証という制度がある(身体障害者手帳1〜4級、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持で「乗車証」の交付を受けた人)。



当部局に問い合わせをした。今年度は、76%であるらしい。HPの修正もお願いした。運用の工夫だと思つたが、時刻表を見る限りでは、もっとあるように感じる。自家用車で移動するようにはいかないが不便はない。無事に福祉会館に到着し、裁断機で冊子を分解しスキャンしてデータ化する。やはり事務専用機は違つ。ハッサリ斬れて、たちまちスキャンしてしまつた。帰りは、若戸渡船の2分間の船旅も楽しんだ。

数年前から交付を受けているので無料で乗れる。自宅近くから、若松の二島駅で乗り継いで戸畑駅まで行くことにした。ちなみに、低床バスの保有率は平成16年度が39%、市のHPの確認であるが、あまりに古すぎるので担

この50年史の冊子を活用して、脊髄損傷者の未来をさらに切り開いていきたいものである。協力いただいた、ボラ協職員に感謝!

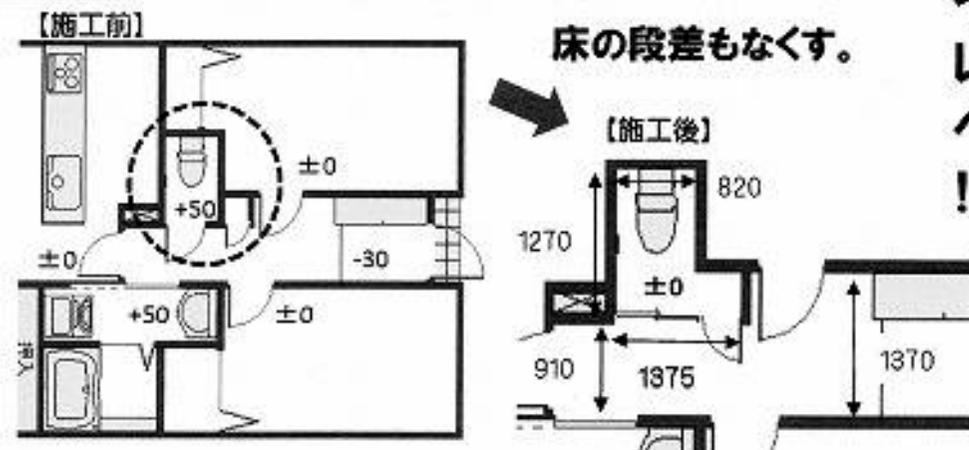
福祉住環境づくり事例

車いすのままトイレへ!!



現状 新築マンションを
購入して二十年。
駐車場から玄関、室内ま
で車いすで移動でき、さほ
ど不便なく過ごされてきた
Sさん。
ただバリアフリーではな
く、トイレはドアの幅が狭
いので外で車いすを降り、
トイレの中に入ってしまし
た。床も5cmの段差があり
ます。
最近では、それらの動作が
だんだんと負担になってき
ました。

提案 トイレ横の収納を取って、出入口を広くする。



設計ポイント 「ひきドア」を取り付けることで、
車いすの斜め前方移乗が可能となります。

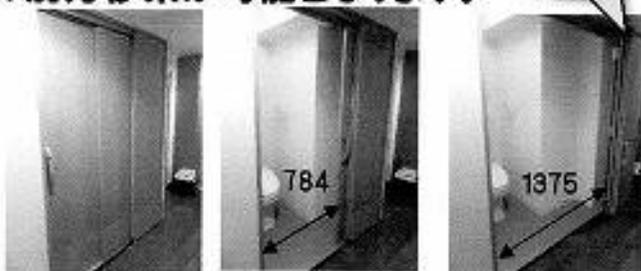
ドアを全開に
できます

DATA

- ご本人/Sさん
 - ・男性 66歳 独居
 - ・20歳で受傷(C-8)
- ご使用の車いすのサイズ



全長1010(足先まで)*全幅580



3枚引戸の状態 通常(小)のときは引戸を引いて出入り (大)のときは3枚扉を開き、スペースを確保

- 工期：2日
- 工事費：58万円 ※助成金利用
(北九州市すこやか助成30万円+介護保険住宅改修18万円)
(トイレ建具/ダイケン「ひきドア」¥327,400/サイズオーダー)

《 今月の時事 》

！いやー驚いた！福島第一原発事故で横浜市に自主避難していた中学一年生がいじめを受け不登校になった。まして、「賠償金あがるだろうといわれた」と、複数の児童から「ばいきんあつかいされ、ほうしゃのうだとおもっていつもつらかった。「加害児童10人ほどと遊園地やゲームセンターなどに行くようになり、遊興費のほか、食事代や交通費も含めて一回5万円～10万円の費用を10回近く負担した。総額150万円に上がる」という。「お金をもってこいと言われたとき、すごい、いろいろとくやしかったけど、ていこうするとまた、いじめがはじまるとおもってなにもできずに～」「(朝日新聞 16/11/16 朝刊・一部抜粋) 子供の世界もここまで「壊れている」のかと愕然とする。言葉の一つひとつ親の影響も否定できない。沖縄出身の東京在中の大学生が同窓に沖縄の基地問題を話すと、「補助金をもらって潤っている人もいるのでは」との記事を思い出した。表と裏、裏で反転する論は「抱える(負=不条理)」を『礼束でホッパタたく』(どうだよ!)と、「ムチとアメ」の世界だ。もう一つは、格差社会の拡大で増大する「生活破壊」の中で、社会生活(地域)・労働現場で「心身ともに疲弊」するストレスを抱えた日々、情報の氾濫する中で「真実・本質」が捉えられないまま、記号化された断片的な「言葉」のみが、一瞬のうち右から左に抜けていく。それゆへ、ことの「本質は喚起」されずに生活実態から「ストレス」が沸騰し金勘定が「感情論」に変換され「罵倒行為」へ、「差別」に晒され、「状態化・常識化」され肥大化するリスクをとともなう。よく「差別された者は、差別を行なう」という連鎖。「虐待を受けた子供は(すべてではないが)、虐待を行なうようになる(虐待を「しつけや教え・教育の方法と学んだ故」といわれている)。福島原発の賠償・廃炉・ゴミ・100年に及ぶ、管理など必要な「財源が倍增」し、その経費を電気料に上乘せると。いまは「自然エネルギーの電気使用している人」も過去に「原発使用者だった」と、対象となるそうだ。イヤー・・・権力と経済は「何でもあり」なのだ。これも「教育? 恫喝」。口をつぐむのか? ころころして年末を終え、新年に備えようと～! 怒りをもって、振り返り! 75年目の(しん)は何者・・・

会員・賛助会員の皆様、是非是非 意見・提言・雑感・本誌の感想など何でも可能。投稿をお願いします。事務メール添付・郵送・FAX等で送ってください。どうぞよろしくお願い致します。

- 編集 福岡県脊髄損傷者連合会 会長 藤田 幸廣
〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内6階
TEL&FAX: 092-592-4528
E-Mail: fukusekiren-kasuga@cello.ocn.ne.jp
- 発行 九州障害者定期刊行物協会 頒価100円(会費に含まれる) 〒810-0001 福岡市中央区天神1-16-1-7F

編集後記
年末も近づき、皆様、お忙しうござります。来年も、よろしくお願ひ致します。(坂本)



この広報誌は、共同募金の配分金を受けて発行しています。